

保証書

持込修理 無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - (イ)使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
 - (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
 - (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛りなどによる故障及び損傷
 - (ニ)消耗または摩耗した部品、付属品の交換
 - (ホ)本書のご提示がない場合
 - (ヘ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
 - (ト)本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
 - (チ)一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	ダブルラジオカセットレコーダー	★お買い上げ日：	年 月 日
型番	RCS-371Z	品番	07-8388
保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)			
お客様	ふりがな		
	★お名前 様		
	★ご住所 〒 ー		
電話 ()			

修理メモ

販売店	★住所 店名 電話	(印)

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- ※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<http://www.ohm-electric.co.jp>

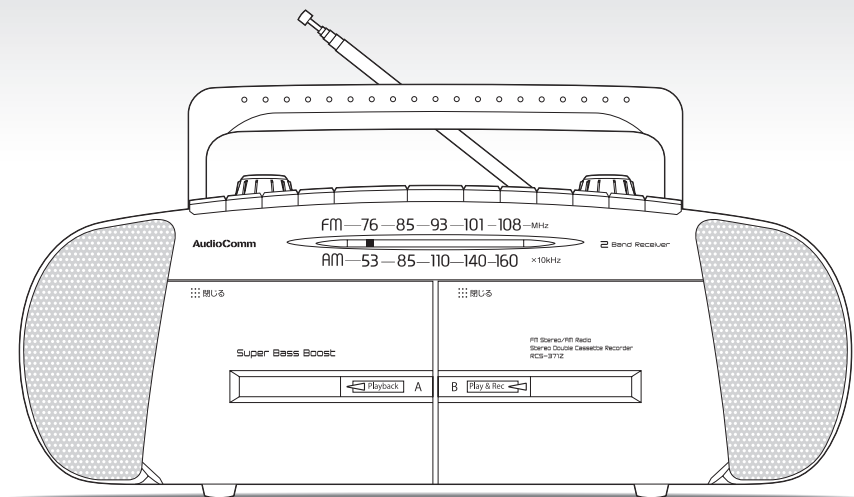
製品に関するお問い合わせは お客様相談室へ	
●通話料無料	●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735	
電話受付	平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます
修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ	
電話受付	048-992-3970 平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

07-8388A

AudioComm®

ダブルラジオカセットレコーダー 型番:RCS-371Z

保証書付 取扱説明書



このたびは、AudioComm®ダブルラジオカセットレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機の機能を充分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。
なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますように大切に保管してください。

目 次

免責事項	1
著作権について	1
安全上のご注意	1~4
電源について	5
ご使用になる前に(カセットテープについて)	5~6
各部の名称	7
ラジオを聴く	8
カセットテープを聴く	9~10
カラオケを楽しむ	10
カセットテープに録音する	11~15
録音用内蔵マイクを使って録音する場合	11
ラジオ放送を録音する場合	12
ダビング録音をする場合	13
マイク(別売)を接続して音声を録音する場合	14
カラオケを録音する場合	15
重低音強調機能について	16
ヘッドホンで聴くときは	16
お手入れのしかた	16
故障かなと思ったら	17
主な仕様	18
保証書とアフターサービス	18
保証書	裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

著作権について

放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

	危険 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
	警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
	注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

- | | |
|--|---|
| | △記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
(左図の場合は感電注意が描かれています。) |
| | ○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
(左図の場合は分解禁止が描かれています。) |
| | ●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。) |

警告

 コンセントから抜く	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●煙が出なくなるのを確認して、販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。	 接続場所を選ぶ	電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続し、異常が発生した場合は速やかに電源プラグをコンセントから抜く ●手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。 ●本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。
	万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。		表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない ●火災・感電の原因となります。
 分解禁止	本機を分解、修理、改造しない ●火災・感電の原因となります。	 禁止	海外では使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災の原因となります。 ●この機器を使うのは日本国内のみです。

⚠ 警告			
 禁止	本製品を家庭用電源で使う場合は必ず付属の電源コードを使う。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しない ●付属の電源コードは本製品専用です。 ●製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。	 禁止	電源コードを敷物などで覆わない ●気づかず重い物を載せてしまい、火災・感電の原因となります。
	 接触禁止	 水かけ禁止	 本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使わない ●感電や故障の原因となります。
	 禁止	 禁止	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●電源コードが破損して火災・感電の原因となります。
 禁止	狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、本機に新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどをかけて通気口をふさがない ●火災の原因となります。	 禁止	本機や電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードの上に本機を載せない ●電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるような物を置かない		電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。
	本機の上に花瓶などの水が入った物を置かない ●火災・感電の原因となります。	 使用を中止する	

⚠ 注意			
 禁止	調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かない ●火災・感電の原因となる場合があります。	 禁止	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となる場合があります。
	ほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となる場合があります。	 乾電池の電極性に注意	乾電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示どおりに正しく入れる ●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となる場合があります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電の原因となる場合があります。		
 禁止	電源コードを熱器具に近づけない ●電源コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となる場合があります。	 音量は小さく	電源を入れる前には、音量を最小にする ●突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。
	ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となる場合があります。	 音量に注意	ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない ●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える場合があります。

⚠ 注意			
 禁止	指定以外の乾電池や使用推奨期限を過ぎた乾電池は使用しない。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となる場合があります。	 アンテナをたたむ	持ち運ぶときは、アンテナをたたむ ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどしてけがの原因になることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない ●電源コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。	 禁止	電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。
 コンセントから抜く	旅行などで長期間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す ●火災・液もれの原因となる場合があります。	 掃除をする	電源プラグとコンセントの接続部を定期的に掃除する ●電源プラグとコンセントの間にほこりがたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的に接続部のほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
	お手入れの際や移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●電源コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。		

乾電池を安全にお使いいただくために	
液もれ、発熱、破裂などの事故を防ぐために、以下のことをお守りください。	
 警告	・火中への投入、加熱、分解をしない ・取り外した乾電池を幼児に触らせない ・ショートさせない ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない
 注意	・⊕⊖の表示どおりに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・使用推奨期限内の乾電池を使う ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない ・使い切った乾電池はすぐに取り出す ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく
●万一液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。 ●万一、もれた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。 ●使用済みの乾電池を廃棄する場合、自治体の条例などで決まりがあるときにはそれに従って廃棄してください。	

電源について

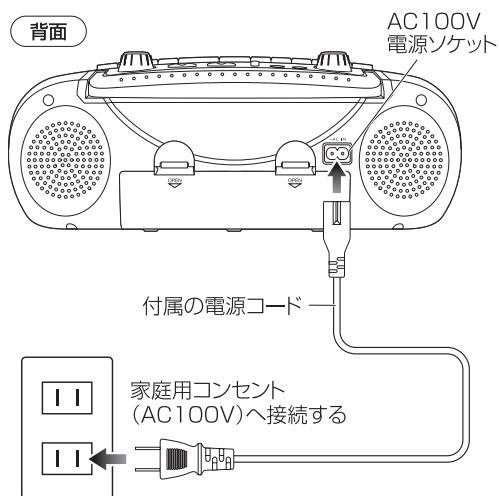


- 電源コードを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行なってください。
- 電源を入れる前に音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

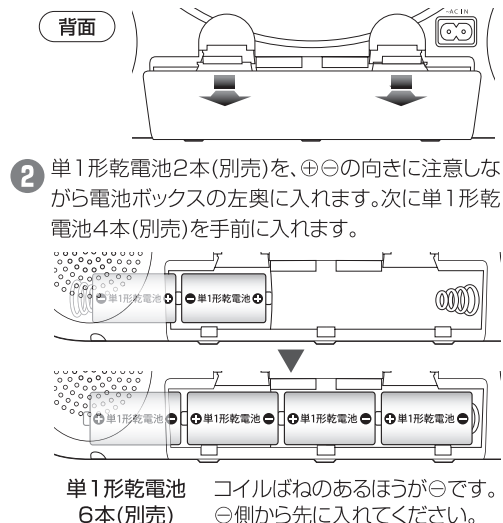
- 乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り換わります。
- 本機を使用しないときは電源コードをコンセントから外してください。



乾電池で使う場合

- アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。
- ※長時間使用するときや大切な録音をするときは、付属の電源コードを使用してください。

- 1 背面にある電池カバーのツメを押し下げながら手前に引き、電池カバーを開けます。



- 3 乾電池を入れたら、電池カバーを元通りに閉めます。

重要

付属の電源コードは本製品専用です。本製品をご使用の際には、必ず付属の電源コードをお使いください。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

本機で使えるカセットテープ

C-60(再生／録音時間が60分)以内のノーマルテープ(TypeI)をお使いください。



C-60以内のノーマルテープ(TypeI)



ハイポジションテープ(TypeII)
メタルテープ(TypeIV)
エンドレステープ
C-60を超えるノーマルテープ

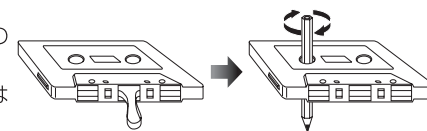
- ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)、エンドレステープは使えません。
- ノーマルテープの場合でも、C-60を超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので使わないでください。

5

ご使用になる前に(カセットテープについて) つづき

カセットテープを聴く前の準備

- テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。
- テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。
- 古いテープを久しぶりに聴くときは、保管状態(汚れやカビ)を確認してください。



本機でカセットテープを操作するときの注意

- 再生中に早送り／巻戻しをするときや、早送り／巻戻しから再生に戻るときなど、テープが動いているときは、必ず停止／取出しボタンでテープ動作をいったん停止させてから、次の操作を行ってください。テープのからまりや故障、破損の原因となります。
- 再生／録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からまりや巻きつきの原因となります。
- テープの途中で早送りや巻戻しを繰り返していると、巻きが乱れて巻きつきの原因となることがあります。最初から最後まで、早送り／巻戻しを数回繰り返して、テープの巻き具合を整えてください。

セミオートストップ機能について

本機にはセミオートストップ機能があり、録音／再生時にテープが終わりまで行くと自動的に止まり、押し込まれていた操作ボタンも自動的に上がります。

早送り／巻戻しでは自動的に止まりません。そのまま放置すると故障の原因になりますので、必ず停止／取出しボタンで止めてください。

カセットテープ保管上のご注意

使用後は必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。長期間入れたままにすると、からまりや巻きつきによって、本機及びカセットテープの故障、破損の原因となります。また、冬場や梅雨時は、テープのからまりが増える傾向にあります。結露にご注意ください。

カセットテープへの録音機能と録音する前の準備

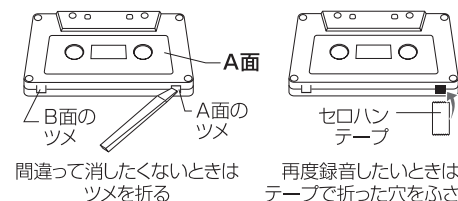
- 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。
- 大切な録音をするときは、付属の電源コードのご使用をお薦めします。

録音する前の準備

- テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は「カセットテープを聴く前の準備」を参照して鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押ししたりすると故障する場合がありますのでご注意ください。
- カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分(透明部)は録音ができません。録音前にこの部分を送っておいってください。

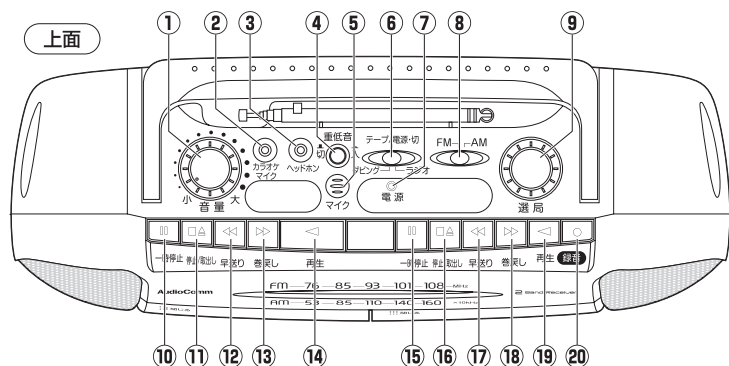
大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違っても大切な録音を消去せずに済みます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。

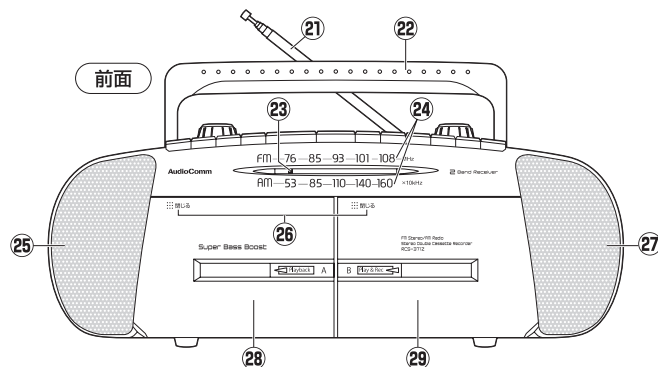


6

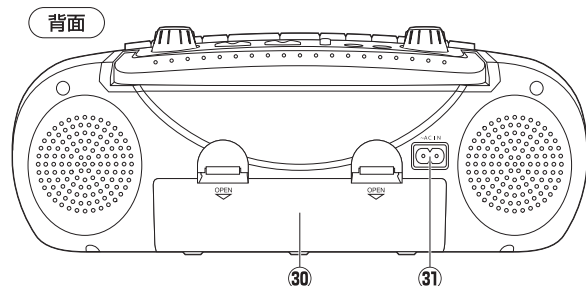
各部の名称



- | | | |
|-----------------|-------------|-------------|
| ① 音量ツマミ | ⑧ バンド切換スイッチ | ⑮ 一時停止ボタン |
| ② カラオケマイク端子 | ⑨ 選局ツマミ | ⑯ 停止／取出しボタン |
| ③ ヘッドホン端子 | ⑩ 一時停止ボタン | ⑰ 早送りボタン |
| ④ 重低音ボタン | ⑪ 停止／取出しボタン | ⑱ 巻戻しボタン |
| ⑤ 録音用内蔵マイク | ⑫ 早送りボタン | ⑲ 再生ボタン |
| ⑥ ファンクション切換スイッチ | ⑬ 巻戻しボタン | ⑳ 録音ボタン |
| ⑦ 電源ランプ | ⑭ 再生ボタン | |
- デッキA操作部
デッキB操作部



- ②① FMロッドアンテナ
②② キャリーハンドル
②③ 選局指針
②④ 選局目盛り
②⑤ 左スピーカー
②⑥ カセットドア閉部
②⑦ 右スピーカー
②⑧ デッキA カセットドア
②⑨ デッキB カセットドア
③⑩ 電池カバー
③⑪ AC100V電源ソケット

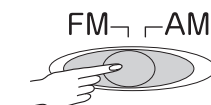


ラジオを聴く

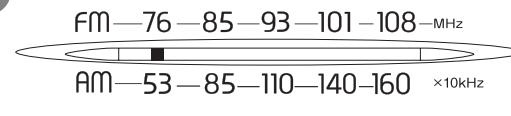
- 1** ファンクション切換スイッチを「ラジオ」に合わせます。
電源ランプが点灯します。



- 2** バンド切換スイッチで「FM」または「AM」を選びます。



- 3** 選局ツマミを回して、聴きたい放送局を受信します。



- 4** 音量ツマミを回して、お好みの音量に調整します。
音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



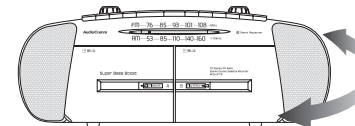
- 5** 終了するときは、ファンクション切換スイッチを「テープ／電源・切」に合わせます。
電源ランプが消灯します。



受信状態をよくするには

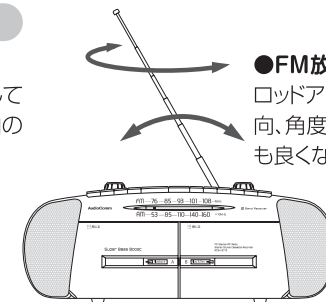
●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●FM放送の受信

ロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節します。



●注意

- テレビの近くでAM放送を受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機を離してご使用ください。
- ラジオ放送の送信所の所在地、送信出力は、放送局ごとに異なります。受信周波数を変えるたびに調整が必要な場合があります。
- 持ち運ぶときは、目をついたり危険ですので、必ずFMロッドアンテナを縮めてください。

FM補完放送「ワイドFM」について

本機はFM周波数帯域が76～108MHzまであり、FM補完放送「ワイドFM」に対応しています。FM補完放送「ワイドFM」とは、AM放送局の放送区域において難聴対策や災害対策のために新たにFM放送用に割り当てられた90.1～94.9MHz周波数帯域を用いて補完的にAM番組を放送することです。FM補完放送「ワイドFM」の開始時期、放送局、使用周波数、聴取可能エリアなどは地域により異なります。詳細は各地域のラジオ局ホームページなどをご覧ください。

カセットテープを聴く



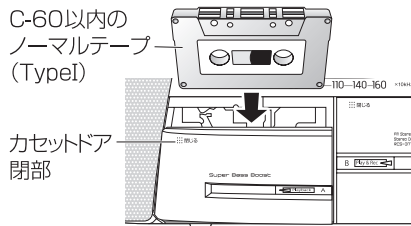
- 本機で再生できるカセットテープの種類やセミオートストップ機能、その他の注意事項は、P.5～6をご確認ください。
- カセットテープの再生操作は、デッキA、デッキBともに同じです。ここではデッキAを例に操作方法を説明します。

- 1 ファンクション切換スイッチが「テープ／電源・切」の位置に合わせられていることを確認します。



- 2 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上し、再生する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。
テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。

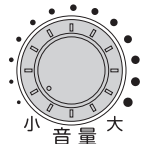


- 3 再生ボタンを押すと、再生が始まります。電源ランプが点灯します。



- 4 音量ツマミを回して、お好みの音量に調整します。

音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



- 5 再生を一時停止するときは、一時停止ボタンを押します。

もう一度押すと再生を再開します。



- 6 停止／取出しボタンを押すと、再生が停止します。

電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



カセットテープ操作ボタンの基本機能

一時停止(II)	再生／録音を一時停止します。もう一度押すと再開します。
停止／取出し(■)	再生・早送り・巻戻し・録音の各動作を停止します。停止中に押すとカセットドアが開きます。
早送り(⏮)	早送りします。
巻戻し(⏭)	巻戻しします。
再生(▶)	カセットテープを再生します。

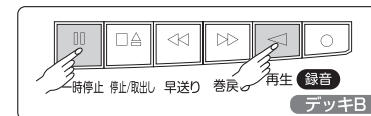
重要

- 動作中に他の動作へ移る際は、必ず停止／取出しボタンでテープ動作を停止させてから行なってください。テープのからまりや、故障、破損の原因になります。
- 本機はセミオートストップ機能(録音／再生時にテープが終わりまで行くと自動的に停止する機能)がありますが、早送り／巻戻しでは自動的に止まりません(ボタンも戻りません)。故障の原因となりますので、必ず停止／取出しボタンで止めてください。

コンティニュアスプレイ(連続再生機能)について

本機は、デッキAからデッキBへの連続再生が簡単にできます。

- 1 先に聴きたいテープをデッキAに、次に聴きたいテープをデッキBにセットします。
- 2 デッキAを再生します。
- 3 デッキBの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押して一時停止状態にします。デッキAのテープ片面の再生が終わると、デッキBの一時停止が解除され、再生が始まります。



カラオケを楽しむ

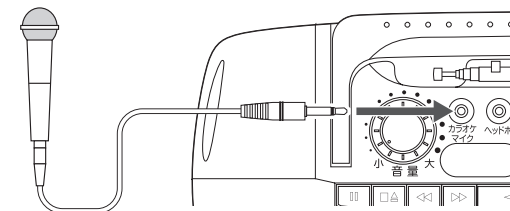
別売のマイクが必要です。

本機では、市販のφ3.5mmミニプラグ対応マイク(ダイナミック型)が使えます。

- 1 ファンクション切換スイッチが「テープ／電源・切」の位置に合わせられていることを確認します。



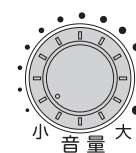
- 2 別売マイクのプラグ(φ3.5mmミニプラグ／ダイナミック型)を上面のカラオケマイク端子に差し込みます。



- 3 カラオケ用のカセットテープをデッキAまたはデッキBに入れて再生を開始すると、マイクの音声もスピーカーから出力されます。電源ランプが点灯します。

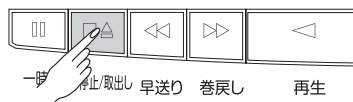


- 4 音量ツマミを回して、お好みの音量に調整します。マイク音量だけを調整することはできません。



- 5 カラオケを終えるときは、停止／取出しボタンを押して再生を止めます。

電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒントとご注意

- カセットテープを装着せずに、デッキAまたはデッキBの再生ボタンと一時停止ボタンを押して上記の操作をすれば、拡声器として使用できます。
- 近隣への迷惑にならないよう音量には十分ご注意ください。

カセットテープに録音する



- 本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.5～6をご確認ください。
- 録音できるのは**デッキBのみ**です。録音用のカセットテープは必ず**デッキB**に入れてください。

録音用内蔵マイクを使って録音する場合

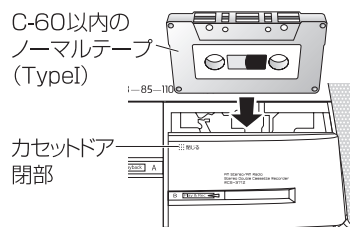
- 1 ファンクション切換スイッチが「テープ／電源・切」の位置に合わせられていることを確認します。



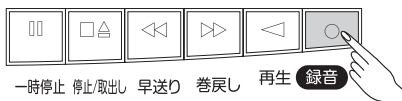
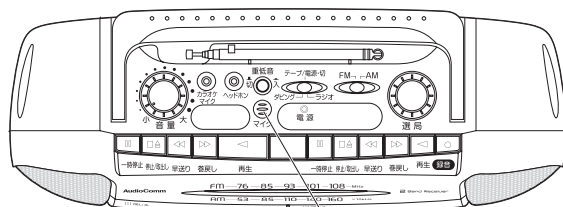
- 2 デッキBの停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、録音する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。



- 3 録音ボタンを押すと、録音が始まります。電源ランプが点灯し、再生ボタンも同時に押し込まれます。録音用内蔵マイクをできるだけ音源に近づけてください。



ご注意

録音ボタンは単独で押してください。再生ボタンといっしょに押すと、うまく押せなかったり故障の原因となります。

- 4 録音を一時停止するときは一時停止ボタンを押します。

もう一度押すと録音を再開します。



- 5 録音を終わるときは、停止／取出しボタンを押します。

電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒントとご注意

- 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。
- 録音した音声はモノラルとなります。

ラジオ放送を録音する場合

- 1 ファンクション切換スイッチを「ラジオ」に合わせた後、バンド切換スイッチと選局ツマミで録音したい放送局を受信します。電源ランプが点灯します。

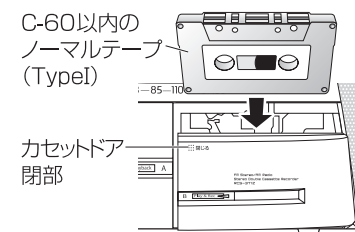
選局のしかたはP.8を参照してください。



- 2 デッキBの停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、録音する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。



- 3 録音ボタンを押すと、録音が始まります。再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 4 録音を一時停止するときは一時停止ボタンを押します。

もう一度押すと録音を再開します。



- 5 録音を終わるときは、停止／取出しボタンを押します。

カセットテープを取り出すには、もう一度停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒントとご注意

- 受信環境などによりノイズが入る場合があります。できるだけ良好な受信状態のもとで録音してください。
- 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。

カセットテープに録音する(つづき)

ダビング録音をする場合

本機では、デッキAからデッキBへのダビング録音(シンクロダビング)ができます。

- 1 ファンクション切換スイッチを「テープ／電源・切」または「ダビング」に合わせます。

「テープ／電源・切」に合わせた場合：通常のスPEEDで再生しながらダビングします。

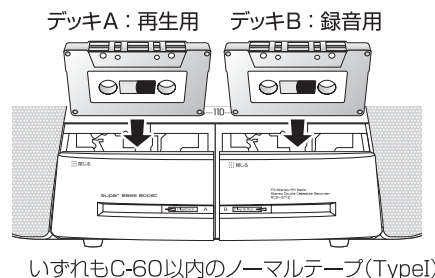
「ダビング」に合わせた場合：倍速で再生しながらダビングします。



- 2 デッキAに再生用カセットテープ(音源となるカセットテープ)を、デッキBに録音用カセットテープを正しく入れます。

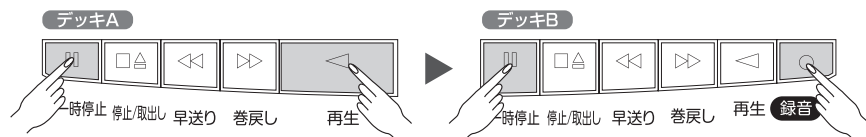
テープの見える側を上、再生／録音する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。

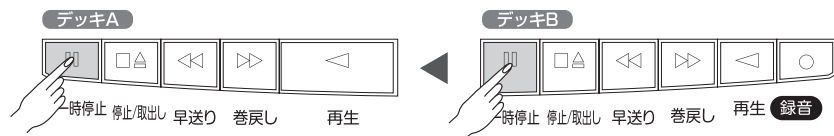


いずれもC-60以内のノーマルテープ(TypeI)

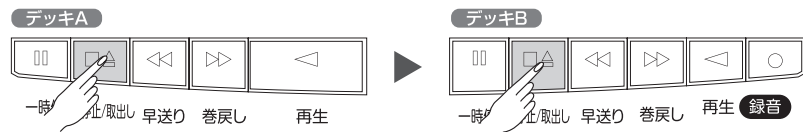
- 3 デッキAの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押します。次にデッキBの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します。電源ランプが点灯します。デッキBは再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 4 デッキB、次にデッキAの順で、それぞれの一時停止ボタンを押すと、ダビング録音が始まります。



- 5 ダビング録音を終了するときは、デッキAとデッキBの停止／取出しボタンを押します。電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度それぞれの停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒント

- 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。
- シンクロダビング(再生連動録音機能)について ステップ③～④の代わりに、デッキBを録音待機(一時停止・録音ボタンを押した状態)にした後、デッキAの再生ボタンを押すと、自動的にデッキBの一時停止が解除され、録音が始まります。ただし、録音部分で雑音が増えます。

マイク(別売)を接続して音声を録音する場合

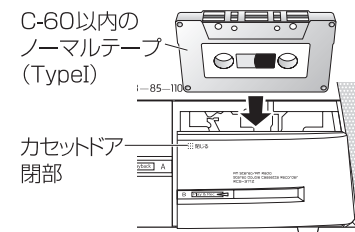
- 1 ファンクション切換スイッチが「テープ／電源・切」の位置に合わせられていることを確認します。



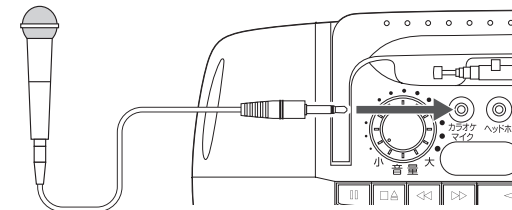
- 2 デッキBの停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、録音する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。



- 3 別売マイクのプラグ(φ3.5mmミニプラグ／ダイナミック型)を上面のカラオケマイク端子に差し込みます。



- 4 デッキBの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押して録音待機状態にします。

電源ランプが点灯します。再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 5 一時停止ボタンをもう一度押すと、マイクからの録音が始まります。



- 6 録音を終わるときは、停止／取出しボタンを押します。電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒントとご注意

- 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。
- 録音した音声はモノラルとなります。

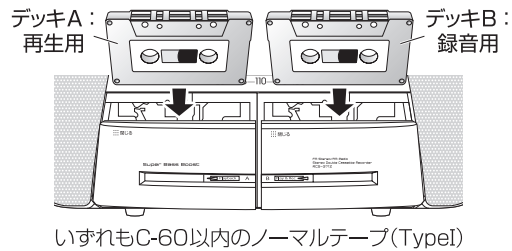
カセットテープに録音する(つづき)

カラオケを録音する場合

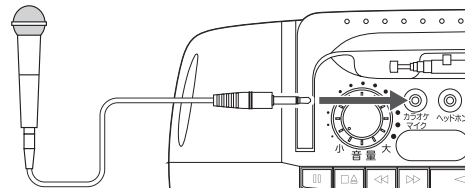
- 1 ファンクション切換スイッチが「テープ／電源・切」の位置に合わせられていることを確認します。



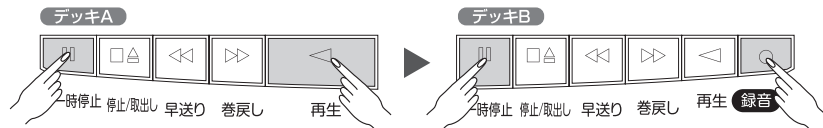
- 2 デッキAに再生用カセットテープ(音源となるカセットテープ)を、デッキBに録音用カセットテープを正しく入れます。
テープの見える側を上、再生／録音する面を手前にして入れ、カセットドア閉部を手で押して閉めてください(テープは右から左へ走行します)。テープ装着後はカセットドアを確実に閉めてください。



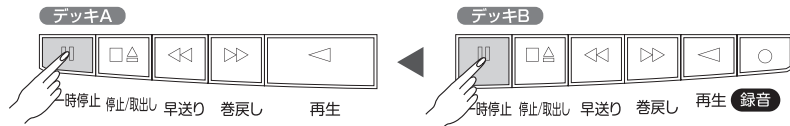
- 3 別売マイクのプラグ(φ3.5mmミニプラグ／ダイナミック型)を上面のカラオケマイク端子に差し込みます。



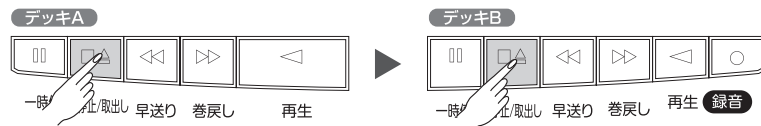
- 4 デッキAの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押します。
次にデッキBの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します。
電源ランプが点灯します。デッキBは再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 5 デッキB、次にデッキAの順でそれぞれの一時停止ボタンを押し、流れる音楽に合わせて歌います。
カラオケの音楽とともに、マイク音声はデッキBのカセットテープに録音されます。



- 6 カラオケ録音を終了するときは、デッキAとデッキBの停止／取出しボタンを押します。
電源ランプが消灯します。カセットテープを取り出すには、もう一度それぞれの停止／取出しボタンを押します。また、取り出したカセットテープはケースに入れて保管してください。



ヒント 録音レベルは固定されていますので、音量ツマミを操作しても録音に影響はありません。

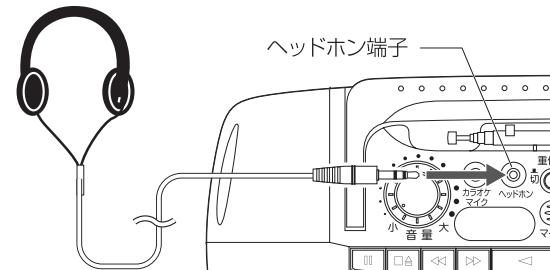
重低音強調機能について



ラジオ放送やカセットテープを聴いているときに重低音ボタンを押すと、低音が強調された音声になります。解除するときにはもう一度重低音ボタンを押してください。

ご注意 録音時に使用した場合、録音される音声は強調されません。

ヘッドホンで聴くときは



- 別売のステレオヘッドホン(φ3.5mm ステレオミニプラグ)をヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聞こえなくなります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- 家庭用コンセントでご使用时、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聞こえる「ブーン」という音)が耳障りになることがあります。その場合は乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。

お手入れのしかた

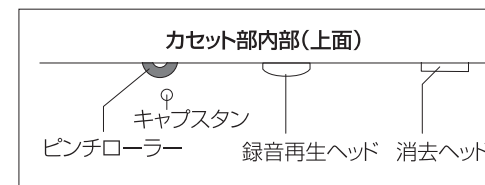
※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行なってください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残る、などの症状が出ます。また、テープが巻き込まれる原因にもなりますので、定期的にヘッド部を清掃してください。

清掃方法

カセットドアを開け、市販のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、次に使うときは、内部についたクリーナー液が十分に乾いてから、カセットテープを入れてください。



ヘッドの消磁を行なうには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。
※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

キャビネットの清掃

- キャビネットや操作ボタンなどが汚れたら、柔らかい布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後から拭きをしてください。
- 電源コードのプラグにほこりがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。
- シンナーやベンジン、アルコールなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。



シンナー、ベンジン、アルコールは使用しないでください。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしいときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店、または、弊社修理ご相談センターにご連絡ください。

症 状	チェック項目
共通部	動作しない
	電源コードがははずれて(ゆるんで)いませんか。
	乾電池が正しく入っていますか。
共通部	乾電池が消耗していませんか。
	音量ツマミの音量が最小になっていませんか。
	ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。
共通部	ファンクション切換スイッチが適切な位置になっていますか。
	カセットドアが閉まらない
	カセットが逆向きではありませんか。
共通部	テープが走行しない
	一時停止ボタンが押しではありませんか。
	テープ走行が不安定
共通部	テープがたるんでいたり、巻きが乱れていませんか。
	乾電池が消耗していませんか。
	テープが機械に巻きつく
共通部	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。
	テープがたるんでいたり、巻きが乱れていませんか。
	カセットドアがきちんと閉まっていますか。
共通部	C-60を超えるテープを使っていますか。C-60までのテープをお使いください。
	本機のカセット部やテープが結露していませんか。しばらく放置し、結露が取り除かれたことを確認してからお使いください。
	古いテープを使っていますか。劣化して巻きつきやすくなっている場合があります。
共通部	録音ボタンが押せない
	録音しようとするカセットの誤消去防止用のツメが折れていませんか。
	カセットドアがきちんと閉まっていますか。
共通部	カセットが入っていますか。
	前の録音を完全に消去できない
	ハイポジション(TypeⅡ)やメタルポジションテープ(TypeⅣ)を使っていますか。
共通部	録音した音がひずむ
	消去ヘッドが汚れていませんか。
	雑音がひどい、音が震える
共通部	ヘッドやピンチローラー、キャプスタンが汚れていませんか。
	音飛びがする、高音が出ない
	テープがたるんでいたり、巻きが乱れていませんか。
共通部	乾電池が消耗していませんか。
	録音できない
	ヘッドが汚れていませんか。
共通部	カセットの誤消去防止用のツメが折れていませんか。
ラジオ部	ラジオ時に雑音が入る
	近くで携帯電話を使用していませんか(携帯電話を本機から離して使用してください)。
	テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。またテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機をテレビから離してください。
マイク部	マイクの音が出ない
	マイク端子にマイクのプラグが正しく差し込まれていますか。
	ファンクション切換スイッチが適切な位置になっていますか。
マイク部	音量が最小になっていませんか。

主な仕様

■共通部		■ラジオ部	
電源	AC100V	50/60Hz	受信周波数
	DC9V	単 1 形乾電池 ×6 本 (別売)	
定格消費電力	13W		アンテナ
定格出力	1.8W+1.8W		
スピーカー	口径 76mm×2		FM : ロッドアンテナ
端子	音声入力端子 : カラオケマイク端子 (φ3.5mm モノラルミニ端子)		
	音声出力端子 : ヘッドホン端子 (φ3.5mm ステレオミニ端子)		
外形寸法	幅 388× 高さ 135× 奥行 142mm (突起物含まず)		
質量	約 1900g (乾電池含まず)		

■乾電池での連続使用可能時間の目安

	スピーカー出力時	ヘッドホン使用時
AM ラジオ時	約 13 時間	約 40 時間
FM ラジオ時	約 13 時間	約 40 時間
テープ再生時	約 9 時間	約 30 時間

※乾電池での連続使用可能時間の目安は、アルカリ乾電池新品使用・音量中程度のときの目安です。使用状況により異なります。

※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。

※取扱説明書のイラストが製品と一部異なる場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。